

# 香華燈 莊嚴



「羅漢図」部分 鎌倉時代

題字：重要文化財「法華経(色紙経)」部分 平安時代

本館



「鍍金鍍銀仏」部分 隋時代



「青銅鍍金獅子鎮柄香炉」唐時代



「白石蓮台」北齊時代・武平元(570)年

ミフラーブのなかの  
樹と華・水壺・ランプ



Fertek, Central Anatolia  
[フェルテック、アナトリア中央部]  
19世紀中期 部分



Tabriz, North West Persia (Haghighi)  
[タブリーズ、ペルシア北西部(ハギギ工房)]  
20世紀初期 部分

新館

2018年 3月6日(火)～6月10日(日)

休館日 月曜日 但し4月30日(振替・月)は開館、5月1日(火)を休館

入館料 大人：800円 65歳以上・大学・高校生：500円 中・小学生：250円  
(大人・大学・高・中・小学生団体20名以上は2割引)

開館時間 午前10時～午後4時30分(但し入館は午後4時まで)

催し 特別イベント(講演と演奏) 4月29日(祝・日)

新館レクチャー 5月6日(日) 美術に親しむ会 5月20日(日)

アートトーク(スライド解説) 3月11・25日、4月8・22日、6月3・10日の各日曜日

ワークショップ 5月中の毎週日曜日



- 阪神御影駅、JR住吉駅から市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車
- 阪急御影駅から北東約1km(徒歩15分)
- 阪神高速道路3号神戸線、大阪方面：魚崎出口から1.5km 姫路・明石方面：摩取出口から56km
- 無料駐車場あり(大型バスも可)

## しょう こん こん げ とう 莊嚴 香・華・燈 本館

仏を敬って飾ることを意味する莊嚴。その主な要素である香、華、燈（ともしび、光）は古来、日常生活で人々を喜ばせ続けてきました。美を探究する際、しばしばこの三要素が深く関わり、造形活動が行われます。それらは各種の宗教にも取り込まれて、敬虔な存在を崇める作品として実に豊かな発展を遂げました。なかでも仏教では、広範な技法と素材が駆使され、仏の清浄な空間（浄土）を演出する作品たる莊嚴具に昇華しました。

当白鶴美術館は、古くは日本・飛鳥、中国・北齊時代にまで遡る莊嚴具の優品を数多く所蔵し、仏教莊嚴の様相を一望できる美術館としても知られています。

本展覧会では、香、華、燈の三つのキーワードを基に、莊嚴具をはじめとした当館所蔵品を展示し、人々を魅了し続ける美の根源を探ります。



「青銅鶴尾形柄香炉」 唐時代



「青銅鍍金透彫獸脚香炉」 唐時代



「青銅浮牡丹文花生」 鎌倉時代



「几帳飾」 飛鳥時代  
展示期間：5/15(火)～6/10(日)



「阿彌陀三尊画像」 高麗時代  
展示期間：5/15(火)～6/10(日)



「高野大師行状図画」 第一巻(大滝嶽) 部分 鎌倉時代  
重要文化財 展示期間：4/10(火)～5/13(日)



伝狩野永徳筆「四季花鳥図屏風」 六曲一双の内 右隻 部分  
桃山時代 展示期間：4/10(火)～5/13(日)

## ミフラーブのなかの 樹と華・水壺・ランプ 新館

イスラームでは、一日に五回、神への祈りが捧げられています。厳粛な空気の中、聖地マッカ（メッカ）に向けて祈る人びとの膝下には絨毯などが敷かれますが、それは日常空間と祈りの空間とを隔てるという重要な役割を担っています。

イスラームの大きな宗教施設内で、人ひとりが座れる程の大きさのアーチ形が整然と並んだ床面を目にすることがありますが、絨毯の典型的なデザインとして、アーチ形を描いたものがあり、それを「ミフラーブ絨毯」と呼んでいます。「ミフラーブ（メフラブ）」とは、マッカの方角を示すアーチ形の壁龕（へきがん：壁につくられた窪み）のことです。

古典的なミフラーブ絨毯には、花壺やランプがよく描かれています。花壺から溢れる花々には永遠の命が示され、また光を表すランプは、神の存在を象徴するといわれます。

敷物のなかでも贅沢な絨毯は、近代の中東において欧米への輸出産業として発展しますが、ミフラーブ絨毯も、また古典的なデザインのひとつとして、宗教的なモチーフを含めながら、華やかに彩られています。

今回は当館所蔵のミフラーブ絨毯に描かれた文様をとりあげます。



タブリーズ、ペルシア北西部  
(ハギギ工房) 20世紀初期



フェルテック、アナトリア中央部  
19世紀中期



クラ、アナトリア西部  
20世紀初期

### 特別イベント (講演と演奏)

日時：4月29日(祝・日) 午後1時～3時30分(開場は30分前から)  
テーマ：「莊嚴-香、華、燈、そして音」  
講師・演奏：東北大学大学院文学研究科名誉教授・琴古流尺八師範 泉 武夫 氏  
「莊嚴の響き - 天上の楽の音・地上の竹の音 -」  
都山流尺八楽会師範 川村 葵山 氏  
「現代に響く尺八」

### 美術に親しむ会

日時：5月20日(日) 午後1時30分～3時30分  
テーマ：「香、華、燈の美術」  
講師：当館学芸員

### アート・トーク

日時：3月11・25日、4月8・22日、6月3・10日の各日曜日 午後2時～3時  
テーマ：「解説-展示品のみどころ」  
当館学芸員によるスライド解説

### 新館レクチャー

日時：5月6日(日) 午後1時～3時15分  
テーマ：「中東における光」  
午後1時～2時  
講師：関西大学文学部教授 澤井 一彰 氏  
「オスマン帝国期のランプと光」  
午後2時15分～3時15分  
講師：龍谷大学国際学部教授 佐野 東生 氏  
「イスラームにおける「光」の表象-神秘主義の伝統より」

### ワークショップ

日時：5月中の毎週日曜日 午後1時30分～4時  
テーマ：「クルッと反転! 紙が要のミニ屏風」  
指導員：甲南大学学生

ご入館頂きましたら、ワークショップ・イベントのご見学及びご聴講は自由です。内容詳細につきましては、白鶴美術館(078-851-6001)にお尋ねください。

次回秋季展は2018年9月22日(土)から開催の予定です。